

【東北公益文科大学ニュージーランド研究所創立 10 周年記念シンポジウム】

テーマ：『小さな大国』ニュージーランドの教えるものー日本はニュージーランドに何を学ぶかー

趣 旨： ニュージーランドは、国土面積が日本の 4 分の 3、人口が約 430 万人の小さな島国です。しかし、世界で最初の 8 時間労働制や最低賃金制度、女性参政権、児童手当制度などを実現し、社会保障、先住民族問題、自然環境保護、非核政策、行財政改革などの幅広い分野において世界をリードする役割を果たしてきました。イギリス調査機関による「世界平和度指数」ではニュージーランドは 2009 年から 2 年連続「世界一平和な国」にランキングされており、また、2010 年 9 月と 2011 年 2 月のカンタベリー大震災における迅速で民主的な救援・復興プロセスに対する注目も高まっています。

少子高齢化に伴う社会の変革、東日本大震災からの復興をはじめとする大きな課題に直面している日本社会にとり、ニュージーランドから学べることは多く、東北公益文科大学ニュージーランド研究所は 2002 年に日本における最初の総合的ニュージーランド研究機関として発足しました。本シンポジウムは日本ニュージーランド学会第 19 回研究大会との共催により開催し、これまでの研究所と学会の研究成果の中からテーマを 4 つに絞り、「小さな大国」ニュージーランドから日本が学べることについて紹介いたします。

日 時：2012年6月23日（土）13:00～16:00

場 所：東北公益文科大学酒田キャンパス 大教室（301教室）

基調講演：小松隆二（白梅学園大学理事長、学外研究員）

シンポジウム：コーディネータ 澤邊みさ子（東北公益文科大学准教授、
学内研究員）

「震災とエネルギー問題」Stefan Corbett（ニュージー
ランド大使館一等書記官）

「非核政策」高橋康昌（群馬大学名誉教授、学外研究員）

「マオリの文化的資源」澤田真一（弘前大学准教授）

「行財政改革・大学改革」水田健輔（東北公益文科大学
教授、学内研究員）